

福岡市の将来の生物多様性のあり方を示し、保全と持続可能な利用について、各種施策や取り組みに反映するための道筋をつけるもの。

## 背景

- ・福岡市は生物多様性によりもたらされる自然の恵みを背景に歴史・風土・文化を育み発展してきた。
- ・自然の恵みを持続的に享受するため、生物多様性の保全と利用について、全市的な取り組みが必要。

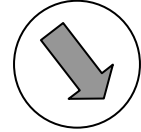
## 目的

生物多様性の重要性を広く社会に浸透させ、福岡市の全施策に生物多様性の保全と利用の視点を組み込むことで、市域の生物多様性の減少を食い止める。

## 福岡市の現状と課題

### 生態系の健全性

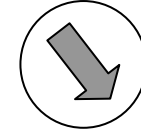
- 生態系の多様性：開発等による生息環境の悪化
- 種の多様性：農林業の衰退などによる農地の減少
- 種の危うさ：国境を越えた環境汚染や外来種の侵入



干潟の野鳥

### 水の循環や豊かな土壌など存立の基盤（基盤サービス）

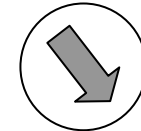
- 土壌形成：都市化による森林、農地生態系の減少
- 水の循環：人工被覆面の増加による水源かん養機能の低下
- 一次生産：森林、農地生態系の保全を担う一次産業の衰退



和白干潟

### 食べ物、木材など暮らしの基盤（供給サービス）

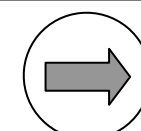
- 農作物：農業の衰退による農産物の供給力低下
- 淡水：水資源の他地域への依存など
- 漁獲：海外の水産物需要の増大による資源量の減少
- 木材：安価な輸入品への依存傾向などによる衰退



あぶっかも

### 自然と共生してきた知恵と伝統、文化（文化的サービス）

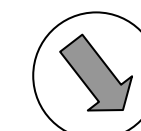
- 文化的多様性：新鮮でおいしい食べ物の豊富さ
- 文化的遺産的価値：自然環境の豊かさ、芸術・文化水準など
- レクリエーション：自然環境を活かした観光ニーズの高まりなど



潮干狩り(室見川)

### 山地災害、土壌流出の軽減など暮らしを守る（調整サービス）

- 大気調整：都市化による森林、農地生態系の減少
- 水の浄化：人工被覆面の増加による水循環機能の低下
- 気候調整：基盤的な機能を周辺地域に頼る



脊振水源林

- ◆ 今後 100 年後も利用できるのは、生物資源だけとされる。石油、金属などはリサイクルしても限りがある。  
→ 食品産業は将来的に材料を手当できるかなど切実。 持続的に利用できるよう保全・利用することが必要
- ◆ 福岡市は大消費地であり、生物多様性への影響を小さくする必要がある。

ライフスタイルの改善に向けた取り組みが必要

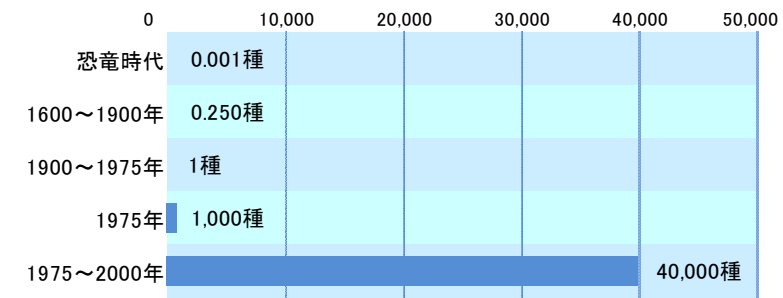
**経済の衰退・市民生活が成り立たなくなる危機的状況が予測される。**

## 世界や日本の危機・課題・動き

### 地球規模の課題

人間は種の絶滅速度をここ数百年で 1,000 倍に加速させ、人間が根本的に地球上の生物多様性を変えつつある。多くの種の絶滅や生態系の崩壊を招いている。（熱帯雨林の急激な減少、種の絶滅の加速、生物資源の消失）

種の絶滅速度（1年間に絶滅する種の数）



資料：ノーマン・マイヤーズ著「沈みゆく箱舟」(1981)



トキ



カワウソ

### 地球温暖化による世界的な危機

- ・ 多くの種の絶滅や生態系の崩壊
- ・ 氷が溶け出す時期が早まる
- ・ 高山帯の縮小、海面温度の上昇
- ・ 動植物の 20～30%が絶滅のリスク

### 日本規模の危機・課題

- 第1の危機：開発や乱獲による種の減少・絶滅、生息・生育地の減少
- 第2の危機：里地里山などの手入れ不足による自然の質の低下
- 第3の危機：外来種などの持ち込みによる生態系のかく乱

### 【生物多様性保全の動き】

- 1992年 地球サミット 生物多様性条約採択
- 2008年 生物多様性基本法制定  
→ **地方公共団体：地域戦略策定の努力義務**
- 2010年 生物多様性国家戦略決定

概ね 100 年後の目標像を示し、今後 10 年程度の取り組みの方向を示す

『市民が多様な生き物とその生息地である自然環境の保全・再生・育成に取り組み、百年後も豊かな自然と共生し、その恵みに支えられ、命をつなぐ未来都市「ふくおか」』

## 今後 10 年間で重点的に取り組む基本的な方向

### 1 『社会への浸透』

生物多様性やその恵みに関する認識の社会への浸透

### 2 『保全』

生物多様性の保全

### 3 『生物多様性に配慮したまちづくり』

生物多様性やその恵みの持続可能な利用ができるまちづくり

### 4 『文化の承継』

生物多様性に支えられるふくおか固有の文化の継承

### 5 『連携』

生物多様性を支える多様な主体や地域との連携

**主な取組み**

<社会への浸透>

**生物多様性に関する教育・学習の推進**

- 指導者等の育成、人材バンク等の仕組の構築
- 幅広い年齢に応じたプログラム・教材を作成

**生物多様性の調査研究の推進**

- 地図情報システム (GIS) を構築し、事業の立地選定や情報解析による施策立案への活用及び情報発信
- 気象、生物等の自然環境データの解析、研究の推進

<保全・利用>

**野生生物の保護管理**

- 野生生物の保護及び絶滅を防ぐ仕組みを検討、構築  
今津干潟周辺のため池・水路の適切な水位管理による新たな鳥類の生息場の創造
- 外来種に関する現状把握、情報発信

**博多湾の生物多様性の向上(豊かな恵みの復活)**

- 藻場の保全再生  
稚仔魚の生育・生息の場である藻場の拡大、生き物が生まれ育つ環境を保全創造
- 底質の改善  
博多湾の底質の改善を進めるための浚渫土等を利用した水質浄化・生物の生息環境創造

**里地、里山、都市域の生態系の保全再生**

- 多様な里山・里海環境  
今津干潟での里海再生事業の拡充、他地域への適用の検討
- 市街地内の生物の生息場所  
市民・NPO等活動団体と連携、共働による市街地内の生物生息環境を保全・回復

**新たな生物生息環境の創造**

- 野鳥公園の整備 (アイランドシティ)  
周辺の自然環境と一体となった空間としての整備
- エコパークゾーンの整備  
自然環境保全と共に市民憩いの場としての創造

**環境の緩和・安定機能の維持増進**

- 森林の保全整備より水源涵養、土壌保全等の機能を増進

<文化>

**地域文化の維持・継承**

- レクリエーション、観光、エコツアーを通して自然公園や里山・里海等の利用の促進
- 五穀豊穡を祝う祭り等地域固有の文化の世代を超えた継承

**評価指標の作成**

H24年度～

**指標例**

<社会への浸透>

- ・ 生物多様性の認識度
- ・ 講習会参加者数
- ・ 環境保全活動団体数 など

<保全・利用>

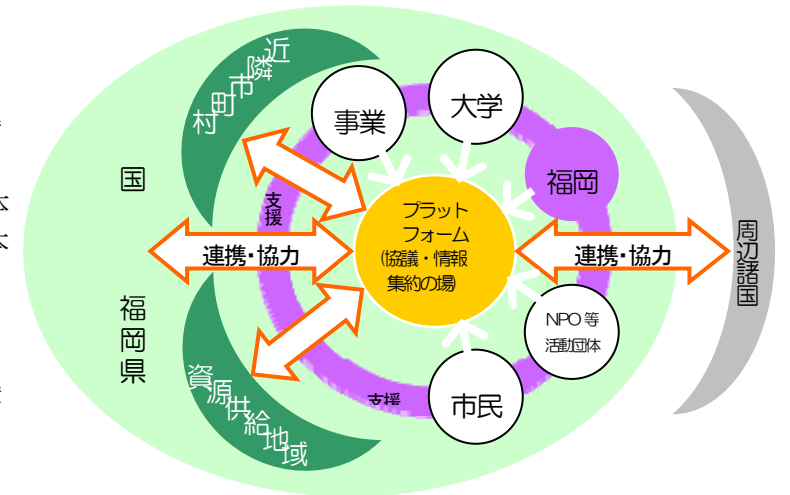
- 自然環境**
- ・ 生物種・個体群の数
  - ・ 貴重生物の種数・個体数
  - ・ 生き物の生息場機能 など

**生態系サービス**

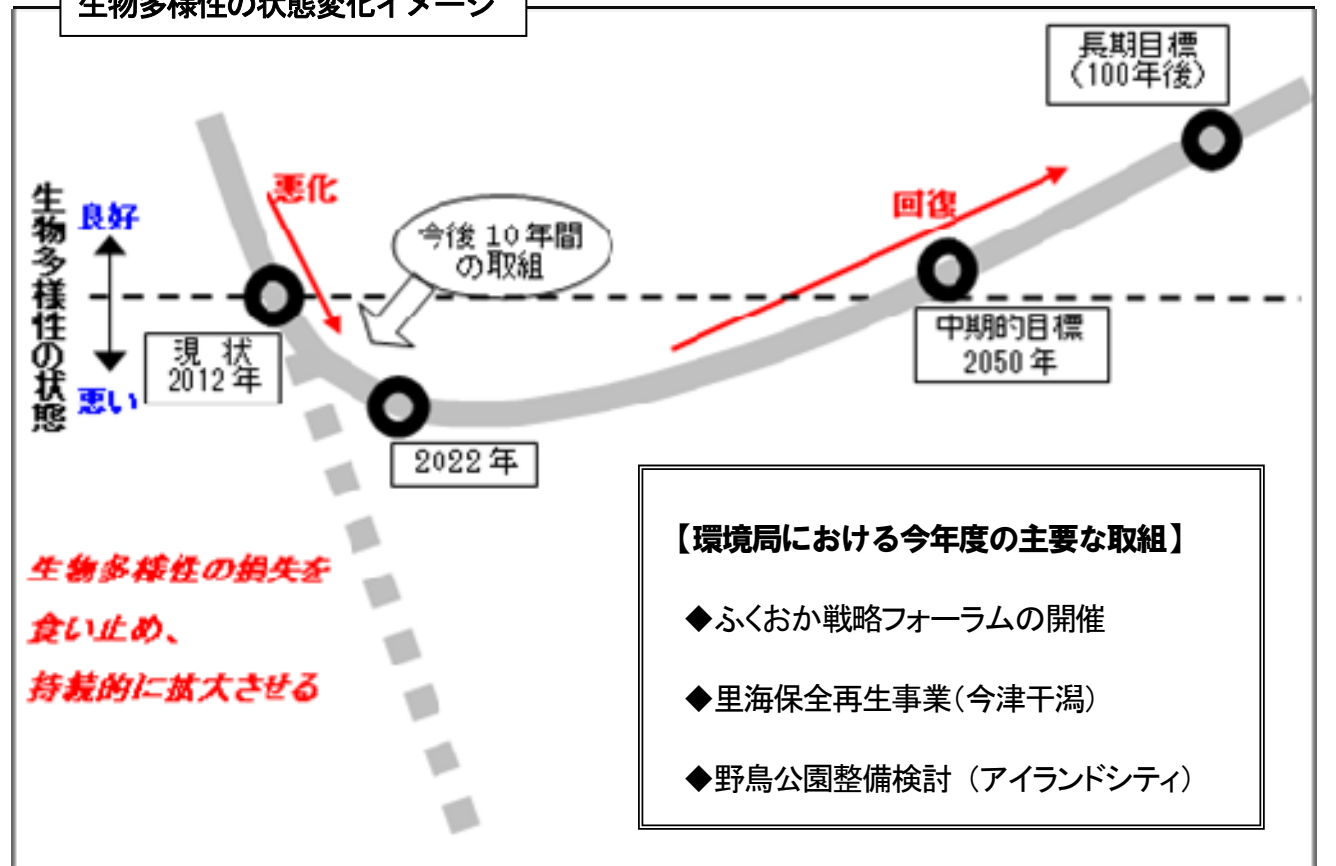
- ・ エコロジカルフットプリント
- ・ 市外依存度
- ・ 土地利用の改変
- ・ 汚染物質の排出 (水・大気)
- ・ 市民参加型取り組み など

**多様な主体との連携**

- ◆ 地域の保全活動との連携、情報交換
- ◆ 多様な主体との連携に必要な情報共有を行うためのプラットフォーム等拠点の整備
- ◆ 評価のための指標の検討、情報収集の具体的手法と役割分担、評価結果を踏まえた基本的方向の見直し等
- ◆ 市域を越えた広域的な取り組みに率先して協力するとともに各地域での取り組みを支援



**生物多様性の状態変化イメージ**



※【生物多様性とは】

様々な環境に適応し生まれた3,000万種ともいわれる生きものたちの豊かな個性とつながりのこと。生態系の多様性・種の多様性・遺伝子の多様性の3つのレベルでの多様性がある。